

福岡県立大学附属研究所不登校・ひきこもりサポートセンターの取組

福岡県立大学附属研究所 不登校・ひきこもりサポートセンター長
門田 光司

1. 不登校・ひきこもりサポートセンターの設置趣旨

不登校への支援は、学校や適応指導教室、フリースクール等をはじめとして多様な機関が積極的に支援をしている。しかしながら、こうした支援の積み重ねによって改善していくケースはあるが、毎年の不登校児童生徒数を見るように減少傾向にはない。特に、近年、不登校及び不登校によるひきこもりの子どもたちへの支援では、社会的自立に向けた子ども自身の人生設計やそれに対する家族支援、学校・家庭・地域の協働を含めた心理・医療・福祉的視点からの総合的なアプローチが必要となってきた。

こうした現状を鑑み、不登校・ひきこもり支援に関心をもつ大学教員が比較的多く揃っている福岡県立大学において「不登校・ひきこもりサポートセンター」を設置し、地域貢献として不登校・ひきこもりの子どもたちや保護者・学校への支援及び関係機関への連援支援に取り組んでいくことにした。これにより、平成 19 年 9 月、福岡県の助成事業にて本サポートセンターが開設された。

2. 活動状況

サポートセンターは 4 部門に分けて事業に取り組んでいる。「相談部門」では、平成 21 年度の相談件数（電話相談・巡回相談・来所相談・訪問相談）は延べ 2,213 件であった。相談地域は福岡県内全域にわたっている。

「連携サポート部門」では、講義科目「不登校・ひきこもり援助論」を履修した本学学生を「県大子どもサポーター」として登録し、不登校支援を求める学校や子ども育成を目指す地域活動に派遣している。平成 21 年度の「県大子どもサポーター」登録者数は 181 名であり、延べ派遣者数は 1,394 名であった。派遣先及び派遣人数は、表 1 に示す通りである。サポーターの学校派遣における活動内容は、不登校や長欠の子どもたちへの学習支援、余暇活動、話し相手などである。また、不登校の子どもたちが本学に来て、県大子どもサポーターが学内で子どもたちの学習及び余暇活動支援を行う取組を「キャンパス・キッズ」と呼んでいる。さらに、地域の子ども健全育成活動や福岡県警の「少年警察学生ボランティア」による非行防止活動では、非行傾向の子どもたちの交流活動を行っている。

また、平成 20 年度には文部科学省の「質の高い教育推進プログラム」(教育 GP)において、「不登校・ひきこもりへの援助力養成教育」が採択された。これにより、新たな事業部門として「教育・社会支援部門」を設け、学内にフリースクール（呼称「キャンパス・スクール」）を開設した。これは、不登校の子どもたちに対し学内での学習及び社会性の発達を促進するとともに、県大子どもサポーターが参加することで、学生の援助力養成教育を図る取組である。平成 21 年度は

28名の不登校の子どもたち（小・中・高校生）が登録・通級し、県大子どもサポーターが学習支援やグループワーク活動に参加した。また、不登校児の家族支援として家族交流会を月1回開催している。そして、高校生や中途退学者等の社会化支援として社会的自立支援を行う活動も実施している。

さらに、不登校・ひきこもりの子どもたちへの支援に際して、学校・家庭・地域・関係機関の協働を目指すべく、図1に示すように様々な関係機関とのつながりを築いている。

表1. 県大子どもサポーター派遣機関と派遣人数

<p>県大子どもサポーター派遣 学生登録者数：181名 ■平成21年度 延べ派遣人数：1,874名</p>	小学校派遣：12カ所/延べ286名
	中学校派遣：7カ所/延べ186名
	高校派遣：1カ所/延べ25名
	特別支援学校派遣：2カ所/延べ46名
	キャンパスキッズ（対象児19名）：延べ154名
	適応指導教室：4カ所/延べ80名
	キャンパススクール（対象児28名）：延べ867名
	地域子ども健全育成活動：延べ71名
	不登校児家庭訪問活動：延べ29名
	不登校児の家庭交流会：延べ129名
	児童相談所グループワーク活動：延べ9名
	福岡県警「少年警察学生ボランティア」非行防止活動：延べ60名

